



<道しるべ>
情けは人のためならず

人に対する親切や良い行いは、巡り巡って自身に返ってくることを示す言葉です。周囲の人間に対して、正しい行いをするという意味を固めることができます。

<学校教育目標>
自ら学び 自他を尊重し
心豊かでたくましい生徒の育成

<重点目標（スローガン）>
感謝+優しさ=笑顔と幸せへの道
発行：長崎市立丸尾中学校
文責：校長 川口 猛
令和8年7月2日 NO20

夏季休業中の中学生議会に参加した本校代表生徒へのインタビュー

夏季休業中に、長崎市教育委員会の主催で、中学生議会が開催されました。本校からも、生徒会長が参加し、1日目は、委員会審議、2日目は本会議と、実際の議会同様に話し合いを行いました。いじめゼロ宣言をどうしていくかなど、中学校生活の向上のための話し合いを重ねました。私も、委員会審議の様子を拝見しましたが、いろんな意見を交換し合い、他校の生徒と交流を深めながら討論している様子を見て、たくましく感じました。この中学生議会に参加した生徒会長さんにインタビューをしましたので、掲載いたします。

【インタビューー】

「8月に長崎市議会の方と一緒に、中学生議会に参加をしました。長崎市議会議員の方と一緒に話し合いをしましたが、そのことについて気づきや感想を述べてください。」

【生徒会長】

「僕たち中学生には考えられないような壮大なお考えや、僕たちに対して明確に教えてもらったアドバイス等がいろんな学びになり、充実していました。」

【インタビューー】

「中学生議会で学んだこと、感じたこと、気づいたことなどを教えてください。」

【生徒会長】

「自分が一番学んだことは、相手の意見を受け止めることだと思いました。僕たちのグループはみんなが、みんな多種多様な意見を持っていましたが、誰も人の意見を否定したり割り込みせず、相手の意見を受け止めた上で自分の意見を発信していたので、今回のような素晴らしい案を発信できたのだと思います。」

【生徒会長】

「今日一番驚いたのは、全員生徒会役員で、みんながみんなお堅い人たちばかりで、自分は馴染めるのかと悩んでいましたが、みんなそんなことはなく、明るくてメリハリがついていて、これが学校のトップクラスに立つ人なんだと痛感しました。これからはメリハリを意識しながら活動したいと思いました。」

いかがだったでしょうか。『経験は力なり』と言われるそうですが、実際に議場と言う場所に立つことが許されるのは、議員の資格を有する人たちであることを考えると、なかなかできない経験だったと思います。また、小規模校の本校では、異なる価値観を持った人たちと交流したり、意見交換するということはありません。クラス替えがなく、進級していくので、日常で触れる価値観や考え方や接するというのは、長い目で見たときに、コミュニケーションスキルのアップにつながったことと考えます。準備から当日まで生徒会長さんお疲れさまでした。まだ、この議会で決まったことを学校で実践するという大きな課題が控えているので、そこまで頑張ってもらいたいです。

昭和世代の私ですが、私が少年のころ、世の中こんなに暑くなかったし、30度を超える日は、「うわー今日は30度超えとる。暑いはずばい」と言っていました。が、今や、35度を超え、40度声も出てきています。この暑さによる熱中症の急増。社会問題です。ところが、同じ日本でも、場所が変わると、線状降水帯で大雨。ゲリラ雷雨で大雨。逃げ場を失ったかたが溺死するというケースも稀ではありません。そして、相次ぐ地震。私たち長崎県の橘湾には、断層があるそうです。大きな地震があってもおかしくありません。熊本での地震も、ついこの間地震があつて、また起こりました。人間は、自然を征服することはできません。この未曾有の災害から、身を守る手立てを考えなければなりません。私の家は、災害用バッグなど準備していません。そのようなところから始めなきゃいけませんね。